



週間情報



No.3048

発行日 平成30年12月18日

発行所 全国消防長会

一般財団法人 全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 全国消防長会消防長研修会（北海道支部）を開催

全国消防長会北海道支部

全国消防長会北海道支部では、平成30年11月28日（水）、札幌市（ホテルモントレエーデルホフ札幌）において、全道の消防長を対象とした、平成30年度消防長研修会を開催しました。

研修会では、道内58消防本部から52名の消防長（代理を含む。）が参加し、下記の内容について講師からご講義をいただくとともに、全国消防長会事務局から本会各種事業等について報告及び説明を実施しました。

【講義内容】

- 「消防行政の現状と課題について」
総務省消防庁
国民保護・防災部長 小宮 大一郎 氏
- 「組織の内部管理と『コンプライアンス』について」
株式会社北洋銀行
顧問 横内 龍三 氏



【研修会の様子】

◆ 火災原因調査・危険物事故調査に関する研修会を開催

沖縄県中部消防長会

沖縄県中部消防長会予防事務担当者会議主催により、平成30年11月16日（金）、沖縄県うるま市（うるま市民芸術劇場）において、沖縄県危険物安全協会中部地区支部協賛のもと、総務省消防庁消防大学校消防研究センターから西晴樹氏及び高橋伸幸氏の2名を講師に招き、火災原因調査・危険物事故調査に関する研修会を開催しました。

当日は、県内消防本部（局）及び中部地区危険物関係事業所並びに県内関係機関から244名の参加があり、これまで携われてきた貴重な経験、様々な事故調査、分析結果等をご講義いただきました。

両氏のご講義により、火災原因調査、立入検査及び危険物事業所の自主保安体制の確保等に生かせる大変有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

◆ 警防技術情報交換会（Fire Fighter Day）を開催

紀南消防長会

紀南消防長会（和歌山：田辺市消防本部、新宮市消防本部、白浜町消防本部、串本町消防本部、那智勝浦町消防本部）（三重：熊野市消防本部）では、平成30年12月3日（月）、火災初期における屋内進入を基本とした人命救助及び消火活動を主眼に、警防技術情報交換会を開催しました。

各消防本部の消防隊が一同に会し、お互いの活動について意見交換を実施し、各消防本部における警防活動等への理解を深める良い機会となりました。



【警防技術交換会の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 年末の繁忙期を控えて大型商業施設への消防署長特別査察を実施

大分市消防局（大分）

大分市消防局中央消防署では、平成30年11月27日（火）及び28日（水）の2日間、管内の大型商業施設である株式会社トキハ本店及びJ R大分シティにおいて、消防署長特別査察を実施しました。

この特別査察は、年末の繁忙期を控え、混雑が予想される大型商業施設における火災等の未然防止及び事業所の防火意識の高揚を図ることを目的として実施したものです。

今回の特別査察では、消防用設備等の維持管理状況、通路・階段等の避難管理状況を重点査察項目として確認しました。

また、消防隊員が、非常用エレベーターや連結送水管等、消火活動上必要な施設について位置等を確認し、有事の際の活動についても改めて情報共有することができました。

消防署長から施設関係者に対して直接指導を行ったことにより、火災予防の意識を更に高めることができました。



【消防署長特別査察の様子】

◆ 東葛飾地区女性消防吏員座談会を開催

柏市消防局（千葉）

柏市消防局では、平成30年11月30日（金）、東葛飾地区女性消防吏員座談会を開催しました。

当座談会は、千葉県東葛飾地区の女性消防吏員を対象とし、女性消防吏員の活躍推進施策の取組紹介や諸課題について座談会を行い、情報の共有及び職員相互の親睦を深めることを目的として開催し、9消防本部22名の女性消防吏員が参加しました。

座談会では、それぞれの所属における課題や現状の職場環境などについて、活発な意見交換が行われ、男性の多い職場環境においても女性の意見を発信することの重要性について認識を深めることができ、大変有意義な会となりました。

今後も、所属の垣根を越えて、女性消防吏員の活躍推進に向けて取り組んでまいります。



【座談会の様子】



【座談会後の集合写真】

訓練・演習

◆ 高校生消防団の小型ポンプ操法水出し訓練を実施～次代の防災リーダーが奮闘中～

南但消防本部（兵庫）

南但消防本部では、平成30年11月29日（木）、兵庫県立和田山高校において、同高校男子学生により結成した高校生消防団による小型ポンプ操法水出し訓練を行いました。

この高校生消防団は、同高校の総合学習講座「サバイバル・マネジメント」を受講している3年生の男子生徒22名により結成され、将来は地域の防災リーダーになることを目指し、4月から毎週2時間の訓練に励んでまいりました。

今回、初めて水出し訓練を行いました。規律ある態度ときびきびした動きで役割をこなし、火点を放水で落とすと、見守る生徒から歓声があがりました。

生徒からは、「水の圧が思ったより強く、人の安全を守る重みを感じた。」「将来は地域の消防団に入り活動したい。」と、頼もしい言葉もありました。



【訓練の様子】

◆ 雑居ビル関係者を対象とした合同消防訓練を実施

福岡市消防局（福岡）

福岡市消防局では、平成30年11月13日（火）から15日（木）までの3日間、福岡市健康づくりサポートセンターあいれふにおいて、また、27日（火）から29日（木）までの3日間、博多消防署及び冷泉公民館において、中洲・天神地区をはじめとする雑居ビルの関係者を対象とした合同消防訓練を実施し、延べ475名の方が参加されました。

当消防局では、雑居ビルの関係者が、消火、通報及び避難の訓練要領を身に着けていただくことを目的に、同訓練を毎年秋に開催しています。

今年度の訓練では、119番通報をする上での注意点の確認、資料映像による避難器具の取り扱いについての講習及び消防用設備等の取扱訓練を行うとともに、当市建築部局による建築基準法に関連した違反防止の講習を盛り込むなど、関係部局と連携を図りながら、「安全・安心なまちづくり」に取り組んでいます。

訓練に参加した関係者からは、「このような機会がないと、なかなか防災に対して考えることがなかった。」「普段から防災に対する意識を持つことで、大切な命が守られるのだと改めて思った。」との声が聞かれるなど、訓練を通して防災の重要性を理解していただく良い機会となりました。



【訓練の様子】

◆ 消防・警察・JR・医療機関の合同訓練を実施

君津市消防本部（千葉）

君津市消防本部では、平成30年11月30日（金）、消防・警察・JR・医療機関の合同訓練を行いました。

合同訓練では、JR君津駅において、踏切内に進入した人を救出しようとした複数の人が電車と衝突した人身事故の対応訓練を行うとともに、発車直後の電車内で乗客がガスボンベを爆発させたテロ行為を想定し、多数の傷病者への対応や乗客の避難誘導など、より実践的な訓練を実施しました。

訓練には、富津市消防本部、千葉県警察、JR東日本千葉支社及び君津中央病院（DMAT）が参加し、関係機関との連携強化を図るとともに、迅速的確な災害活動体制を確立しました。



【人身事故対応訓練の様子】



【電車内でのテロ対応訓練の様子】

◆ 平成30年度第3回警防研究会を実施

尼崎市消防局（兵庫）

尼崎市消防局では、平成30年11月29日（木）及び30日（金）の2日間、尼崎市防災センターにある訓練施設を使用し、平成30年度第3回警防研究会を実施しました。

この警防研究会では、災害活動経験の少ない若手職員が増加していることから、警防活動技術の向上及び各隊相互の連携強化を目的とし、様々なテーマを取り上げ、講義や訓練を年4回実施しています。

今回は、耐火造建物火災を想定し、一方攻撃他方警戒の消火戦術のもと、効果的な放水活動及び各隊における活動の連携を再確認することができました。

今後も、当研究会を通し、警防活動技術の更なる向上を目指してまいります。



【地上からの放水の様子】



【高所での放水の様子】

◆ 平成30年度消火技術練成会を開催

伊丹市消防局（兵庫）

伊丹市消防局では、平成30年11月30日（金）、消防局訓練場において、平成30年度消火技術練成会を開催しました。

当練成会は、中隊での消火技術の基本訓練を徹底するとともに、火災現場経験の少ない若手職員の育成の場として、消火活動能力及び現場指揮能力の向上を図ることを目的として実施しているもので、警防隊員による活気あふれる訓練が行われました。

今後も、日々訓練に励み、市民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し、更なる消防活動の充実強化に努めてまいります。



【消火技術練成会における訓練の様子】

◆ 特別消防対策区域における火災防ぎょ訓練を実施

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部（石川）

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部では、平成30年12月2日（日）、宝達志水町子浦区において、各関係機関と合同で特別消防対策区域における火災防ぎょ訓練を実施しました。

当消防本部では、平成28年12月22日に発生した糸魚川市大規模火災を受けて計11地区を特別消防対策区域として指定し、各指定区域で訓練を実施してきました。

今回の訓練は、宝達志水町内の指定区域において火災が発生し、強風により大規模火災に発展する恐れがあるとの想定で行いました。消防関係者約110人が火災防ぎょ、飛び火警戒、防災行政無線による住民広報、住民避難誘導訓練等を実施し、迅速な火災防ぎょ・避難体制の確立及び関係機関相互の連携強化を図りました。

当該地区での訓練は初の試みでしたが、今後も、消防団及び関係機関との合同訓練を重ね、各関係機関と連携した消火活動体制の確立を図ってまいります。



【火災防ぎょ訓練の様子】



【住民避難誘導訓練の様子】

◆ モノレールからの救出訓練を実施

長野市消防局（長野）

長野市消防局篠ノ井消防署では、平成30年12月3日（月）、長野市茶臼山動物園において、同施設職員と合同で、定員25名のモノレール車両を使用した救出訓練を実施しました。

訓練では、モノレールが機器故障により地上約15メートルの中間地点で緊急停止し、乗客が取り残されたとの想定のもと、乗客5名（車いす使用者1名、子供1名を含む）及び乗務員1名を救出しました。

また、施設職員の緊急時情報伝達訓練を行うとともに、点検用の足場を使用した救出方法の検討及び確認を行うことができ、非常に有意義な訓練を行うことができました。

今後も、県内外から多くの観光客が訪れる同施設の安全を確保するとともに、関係機関との連携強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 防災航空隊と合同水難救助訓練を実施

桑名市消防本部（三重）

桑名市消防本部では、平成30年12月5日（水）、桑名市立田町地先揖斐川右岸及びいなべ市ヘリポートにおいて、三重県防災航空隊と合同で、水難救助訓練を実施しました。

この訓練は、三重県防災航空隊との連携訓練として、捜索救助訓練及び場外離着陸場における機体誘導訓練を実施し、水難救助事故において航空隊と活動する際の安全管理の確認及び隊員相互の連携・技術の向上を図りました。

現在、当消防本部の水難救助隊員は19名で、毎月、三重県消防学校のプールや河川で、訓練を行っています。

今後も、安全確実に迅速な活動が実施できるよう訓練を重ね、更なる水難救助活動の強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体予定の公共施設を活用した火災救助訓練を実施

熱海市消防本部（静岡）

熱海市消防本部では、平成30年12月5日（水）及び6日（木）の2日間、解体予定の公共施設を活用した火災救助訓練を実施しました。

訓練には、齊藤熱海市長及び熱海警察署員の視察のもと、延べ60名の消防職員が参加し、火災の性状確認、消火活動における炎と空気のコントロール、脱出経路の確認及び火災現場における安全管理の向上を図りました。

訓練では、ファイヤーコントロールBOXを燃焼させて火災性状を確認した後、建物内に充満した煙の排気、濃煙下での緊急脱出、収容物に見立てて着火させた木製可燃物のプルームや天井ジェットなど、建物火災で起こる各種現象に合わせた効果的な消火戦術の確認等を行いました。

訓練を通し、隊員間における知識・技術の共有を図ることも目的としており、今後も、実践的な訓練を行うことで、当消防本部職員間における災害対応への認識をより深め、「市民・観光客の安心・安全」の確保につなげてまいります。



【訓練の様子】

研 修 等

◆ 自衛隊による冬山における捜索救助活動研修会を開催

大館市消防本部（秋田）

大館市消防本部では、平成30年12月4日（火）、陸上自衛隊秋田駐屯地第21普通科連隊第4中隊7名を講師に招き、冬山における捜索救助活動についての研修会を開催しました。

この研修会は、本格的な雪シーズンを迎えるにあたり、冬山の捜索救助要領の知識・技術等の向上を目的として開催し、冬季の基本的知識、ビーコン捜索訓練、プロービング等について学びました。

今後も、冬季における救助技術・知識の向上を図り、職員が共通の認識をもって災害対応できるよう訓練に励んでまいります。



【研修会の様子】

◆ 認知症サポーター養成講座を実施

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部（青森）

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部では、平成30年12月4日（火）及び5日（水）の2日間、職員を対象とした認知症サポーター養成講座を実施しました。

この講座では、全国キャラバン・メイト連絡協議会から、認知症の方々のケアをされている介護福祉士の職員6名を講師に招き、講義やグループワーク、寸劇などを交え、90分間の研修を実施していただきました。

2日間で延べ231名の職員が参加し、認知症に関する基礎知識及び認知症の方々への対応を学び、大変有意義な講座となりました。

講座を修了した職員には、認知症サポーターの証であるオレンジリングが配付され、認知症サポーターがいることをお知らせするステッカーを全ての署所に掲示しました。

今後も、当講座で得た知識を活用し、消防職員として認知症の方々をサポートできるよう努めてまいります。



【講座の様子】



【オレンジリングとステッカー】

◆ 平成30年度機関員研修を開催

大垣消防組合消防本部（岐阜）

大垣消防組合消防本部では、平成30年12月5日（水）、今後、機関員になる採用4年目の職員を対象に、旧自動車学校において、機関員研修を開催しました。

この研修は、運転技術の向上及び交通事故防止を図ることを目的に毎年開催しているもので、救急車、消防ポンプ車等を使用し、基本走行訓練（スラローム走行、クランク走行等）、応用走行訓練（切り返し、坂道発進、急制動等）を実施しました。

運転技術の向上だけでなく、自身の運転技術を正確に把握することができ、今後につながる大変有意義なものとなりました。



【研修の様子】

◆ 平成30年度災害伝承講演会を開催

磐田市消防本部（静岡）

磐田市消防本部では、平成30年12月6日（木）及び7日（金）の2日間、当市消防庁舎大会議室において、パシフィックコンサルタンツ株式会社事業開発本部の山崎義勝氏を講師に招き、「東日本大震災…被災地からのメッセージ…消防隊員『心』の葛藤！」と題して、平成30年度災害伝承講演会を開催しました。

講演会では、東日本大震災における消防職員及び消防施設の被災状況等から、大震災等が発生した場合に何を最優先にして対応するべきか等、講師自身の実体験に基づくお話をいただきました。

また、大規模災害への事前の備えと災害終息後の「心のケア」について、改めてその重要性を認識する良い機会となりました。

また、災害対応経験の少ない若手職員にとって、実災害を体験された講師の体験談は、災害時をイメージできる尊い話であり、身の引き締まる思いで拝聴していました。

今後も、当災害伝承プロジェクトを活用した講演会等を、継続的に開催してまいります。



【講演会の様子】

◆ 安全管理講習会を開催

伊勢原市消防本部（神奈川）

伊勢原市消防本部では、平成30年12月7日（金）及び10日（月）の2日間、高速道路本線で安全管理をされている中日本高速道路株式会社及び中日本ハイウェイ・パトロール東京株式会社の職員の方を講師に招き、安全管理講習会を開催しました。

この講習会は、今年度開通予定の東名高速道路伊勢原ジャンクションや、来年度開通予定の新東名高速道路（仮称）伊勢原北インターチェンジからの出動時における各種活動の注意点等を確認する目的で開催したものです。

参加した消防職員は、過去の危険事案の講義及びミニチュア車両を使用した検討を通し、高速道路本線上での安全活動に関する知識を深めました。



【講習会の様子】

そ の 他

◆ 救命活動協力者へ感謝状を贈呈

阿久根地区消防組合消防本部（鹿児島）

阿久根地区消防組合消防本部では、平成30年11月28日（水）、管内で発生した救急事案における救命活動協力者に対し、感謝状を贈呈しました。

当事案は、平成30年9月20日（木）、阿久根市晴海町の北さつま漁協第3冷凍冷蔵庫で、大型トラックからの荷卸し作業中に心肺停止状態となった作業員に対し、同作業を行っていたトラック運転手及び北さつま漁業協同組合職員の男性2名が、救急車の要請から救急隊到着までの間、絶え間なく的確な心臓マッサージを実施したことにより、救急隊到着後に傷病者の心拍が再開し、その後社会復帰されたものです。

感謝状贈呈式では、尊い命を救った勇氣ある行動に感謝の意を表し、当消防組合管理者から北さつま漁業協同組合職員の男性に感謝状を贈呈しました。

なお、トラック運転手の男性は都合により欠席であったため、後日、感謝状を贈呈しました。



【贈呈式の様子】



【贈呈式後の記念写真】

◆ 簡易ベッド用マットの贈呈式を実施～緊急消防援助隊支援資機材を整備～

幸田町消防本部（愛知）

幸田町消防本部では、平成30年11月30日（金）、簡易ベッド用マットの贈呈を受け、贈呈式を実施しました。

当消防本部では、過酷な状況下で任務を遂行する緊急消防援助隊員の休息時（仮眠時）の睡眠の質を高めることで疲労を軽減し、被災地での良質な活動を維持させることを目的に、総務省消防庁から緊急消防援助隊用に配備された仮眠用簡易ベッド上に敷くマットの導入を計画したところ、町内事業所である株式会社エアウィーヴに賛同していただき「エアウィーヴストレッチパッド」を寄贈していただきました。

この度の温かい御支援によりいただいたマットは、幸田町緊急消防援助隊をはじめ、被災地に赴く関係職員の支援資機材として活用させていただきます。

今後も、被災地において、質の高い活動ができるよう、一層努力してまいります。



【贈呈式の様子】



【簡易ベッドの上にマットを敷いた状態】

◆ 電池の誤った保管方法による火災防止広報活動を実施

倉敷市消防局（岡山）

倉敷市消防局水島消防署では、平成30年12月3日（月）から、電池の誤った保管方法による火災防止広報活動を行っています。

当署管内では、今年7月、単三電池を釘やキーホルダーなどの金属製品と一緒に保管したことにより、押し入れの一部を焼損する火災が発生しました。

最近では、様々な電池使用機器の普及に伴い、同様の火災事故が全国で発生しており、各電池製造メーカーのホームページ及び製品のパッケージ上にも、火災予防に関する注意喚起がされています。

当署管内においても、類似火災事故の発生を未然に防止するため、火災事案の原因調査結果をもとに啓発ポスターを作成し、電池を販売している家電量販店等に対し、配布及び掲示を依頼し、広く市民へ注意喚起を行うこととしました。

かけがえのない市民の生命・財産を守るため、究明した火災原因調査結果を広く知っていただき、類似火災を一つでも多く未然に防げるよう、これからも火災予防に尽力してまいります。



【広報活動の様子】

◆ 南米チリ共和国パイネ区への技術支援派遣報告会を開催

比企広域消防本部（埼玉）

比企広域消防本部では、平成30年12月7日（金）、南米チリ共和国パイネ地区への技術支援派遣報告会を開催しました。

この報告会は、一般社団法人日本外交協会から海外への職員派遣の要請を受け、南米チリ共和国に、平成30年10月17日（水）から21日（日）までの5日間、千葉県内の消防本部から寄贈を受けた救助工作車・救助資器材の取り扱い説明及び救助技術の指導研修を行うため、当消防本部職員2名を派遣し、その活動内容について報告をしたものです。

当消防本部では、平成16年度から排ガス規制等の理由で廃車となる予定の消防車両を、日本外交協会を通じ、海外各国へ寄贈しています。また、日本と同じく地震や津波などの自然災害が発生するチリ共和国へは、地震体験車を寄贈した経緯もあります。

チリ共和国の消防組織は、日本と違い、全て非常備の消防団組織で構成されています。今回の依頼元は、サンティアゴ首都圏に位置するパイネ区消防団であり、交通事故が多く、救助工作車を必要としていたことから、様々な質問が飛び交うなど、積極的に訓練に取り組む姿勢を実感し、充実した研修となりました。

今後も、車両・資器材の維持管理を徹底し、消防力の発展に努めてまいります。



【資器材取扱研修の様子】



【現地消防団員との記念写真】

◆ 「Net119緊急通報システム」広報動画を公開

豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部は、聴覚、音声、言語又はそしゃく機能の低下等により、音声で119番通報することが困難な方などを対象として、「Net119 緊急通報システム」の運用を、平成30年10月1日から開始しました。

当システムは、事前登録が必要なため、多くの対象者に必要性を伝え、登録者を増やすことが必要です。そのため、本市在住で、円盤投げ日本記録保持者であり、先天性疾患のため聴覚機能に障害がある「湯上剛輝（ゆがみまさてる）選手」（トヨタ自動車株式会社所属）に出演いただき、広報動画を作成しました。

今後、豊田市ホームページや市内の公共施設など、多くの人の目に触れる場所で放映することで、登録者の増加を図り、音声による意思疎通が困難な方の安心・安全につなげてまいります。この動画は、下記URL及びQRコードから確認することができます。

豊田市YouTube（URL）

https://www.youtube.com/watch?v=tuOKYSm30_4

豊田市ホームページ（URL）

<http://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/shoubou/1020647/1026461.html>



【広報動画のワンシーン】



◆ 「東京の消防白書」を大幅にリニューアル

東京消防庁（東京）

東京消防庁では、都民が1冊で当庁の事業・活動等の情報を把握することができるよう、昨年度より「東京の消防白書」を作成しています。今年度においては、より都民目線に立った白書を作成するため、デザインを業者に委託し、さらに、外部有識者や若手職員を入れて編集会議を開催し、検討を重ね作成しました。

巻頭にトピックスとして、平成29年中の主な災害、救急出場件数が過去最多になったことなど、その年の主な出来事を見開きで迫力ある写真等を活用し、インパクトあるものとししました。また、本文はグラフ、写真及びイラスト等でわかりやすく解説した「数字で見る平成29年中の東京消防庁管内の災害動向等」、「東京消防庁の組織と活動」及び「消防団の組織と活動」で構成されています。

この「東京の消防白書」は、一般財団法人東京消防協会で購入可能です。興味のある方は、電話：03-6261-6564（福利部福利課）までお問い合わせください。



東京消防庁企画調整部
企画課情報統計係 西川
03-3212-2111(内線 2185)

国等の動き

報道発表

◆ 住宅用火災警報器における不具合の発生

(平成30年12月11日、消防庁)

日本ハネウェル株式会社が平成30年3月から10月の間に販売した住宅用火災警報器について、同社より一部製品に不具合が発生するおそれのある旨の報告がありましたので公表します。詳細は、本日同社が発表している別添資料（省略）のとおりです。なお、該当製品については、既に製造・販売を中止しており、すべての納品先を特定できていることから、速やかに回収・交換作業を進めると報告を受けています。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/12/301211_houdou_1.pdf) に掲載されています。

(連絡先)
消防庁予防課
担 当：島村・柏原（予防係）
塩谷・前原（規格係）
電 話：03-5253-7523

◆ 「平成30年度総務大臣感謝状贈呈式（消防団関係）」の開催

(平成30年12月17日、消防庁)

平成29年4月1日に比して平成30年同日現在の消防団員が相当数増加した消防団、並びに本年発生した「平成30年7月豪雨」及び「平成30年北海道胆振東部地震」において献身的に活動を行った消防団など、114の消防団（重複を除き105の消防団）に対し、総務大臣感謝状を贈呈することとし、その贈呈式を開催いたします。

○日時：平成30年12月20日（木）14:30～（概ね30分程度を予定）

○場所：中央合同庁舎第2号館地下2階講堂
（東京都千代田区霞が関2-1-2）

ー以下省略ー

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/12/301217_houdou_1.pdf) に掲載されています。

(連絡先) 消防庁国民保護・防災部地域防災室
担 当：阿部課長補佐、佐久間係長、長谷川事務官
電 話：03-5253-7561（直通）
ファクシミリ：03-5253-7576
電子メール：syobodan@ml.soumu.go.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人 全国消防協会では、平成31年5月を目途に機関誌「ほのお」を一部改編することとしており、次のとおり試行（2019年3号までの試行）として、新しいコーナーの記事を募集しています。

- ① 知識・技術の伝承-教えて！消防技術-
- ② 女性職員の活躍・推進

執筆要領等の詳細は、週間情報No.3032又は機関誌「ほのお」2018年9号29頁を参照願います。

なお、消防ワイドについても随時、記事を募集しておりますので、引き続きご投稿お待ちしております。※消防ワイドは、150文字程度の原稿及びJPEG画像データをhonoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

TEL：03-3234-1321（機関誌「ほのお」担当：原）

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

TEL：03-3234-1321 / E-mail：weekly@fcj.gr.jp

記事の投稿に関する注意点

- ・配信日（原則火曜日）から2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200字～400字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1枚～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。